

観察会報告

清沢のヘイケボタル観察会とホタルの撮影法

横山謙二



暗くなるのを待つ、参加者



ヘイケボタルの光をとらえた合成写真

7月2日（土）清沢のヘイケボタル観察会を行いました。例年は、雨に降られることが多くありましたが、今回は天気恵まれ、多くの参加がありました。これまでのこの観察会では、毎回、暗闇の中でヘイケボタルが飛び交う様の撮影を試みてきましたが、なかなかうまく撮影できなかったことがあります。そこで、少しホタルの撮影方法を勉強していきました。

まず、ホタル撮影で最も重要なことは、懐中電灯やライトなどの余計な光を使わないことです。これは撮影だけでなく、ホタル観賞のマナーとして、まわりの人に迷惑にならないようにするためです。どうしても、光を使わないといけない時は、赤色のライトを使うと良いそうです。

次にホタルの撮影法ですが、いろいろ調べたところ、最近では多くの枚数を撮影し合成する方法が主流のようです。この合成方法では、日が完全に沈む前に、カメラの位置を決め設置し、ピントや絞り値（開放）等を固定します。そして、薄暗い中、背景となる写真を撮影し、完全に暗くなり、ホタルが飛びかいはじめてから、撮影を行います。撮影を始めるとカメラは、絶対に動かさないで、レリーズやリモートスイッチを使います。また、最近ではカメラを携帯で操作するアプリ（例えば、camera connect）があり、こ

のアプリを使うとシャッターを押すだけでなく、絞りやISO感度などのカメラの基本操作ができ、とても便利です。

ヘイケボタルを撮影するのに難しいのは、ISO感度とシャッター速度を決めることでした。私が調べたホタルの撮影方法のほとんどは、ゲンジボタルのもので、ヘイケボタルに関しての撮影方法については、ほとんど書いてあるものではありません。そこで、背景写真を撮影後、ヘイケボタルの光が撮らえられるISO感度値とシャッター速度を探るための撮影を行いました。その結果、50mmレンズ(F2.8)で、ISO4000、シャッター速度13秒で、ヘイケボタルの光を十分に撮らえられることがわかりました。そこからは、ただ連射をしまくり、たくさんの光を拾っていくだけです。

翌日、さっそくPhotoshopを使用し、20枚ほどの写真で、いくつかの合成写真を作成してみました。

しかし、どの合成写真も、まだまだ満足できるものでは、ありませんでした。もう少し、たくさんのホタルの光を撮影しておけばとか、背景の良い場所を選定しておけばとか、いろいろと後悔が残ります。また来年、ホタルの観察会でもっと良い写真を撮りたいです。